



第162回

# 古河提灯竿もみまつり

3年ぶりに開催!

「受け継がれていく伝統」



江戸時代から続く伝統行事「古河提灯竿もみまつり」が12月3日、古河駅西口おまつり特設会場で行われました。今年で162回目を迎えるこの祭りは、矢来と呼ばれる高さ約10mの囲いの中で、長さ約20mの竹竿をぶつけ合い、竿の先に付けた提灯の火を消し合う祭りです。

今年も、開会式に永岡桂子文部科学大臣が参加し、競技参加者らを激励。3年ぶりの開催に、市内外から約4万5千人の見物人が訪れました。

大人部門(競技もみ)は6年ぶりに「全原自治会」が優勝。準優勝は「七軒町自治会」。第三位は「下三自治会」でした。竿の長さを競う一番竿では「七軒町自治会」が連覇を達成しました。

同時開催された「古河マルシェ」では28店舗で飲食物を販売。温かい飲み物を片手に楽しく会話する人たちでにぎわっていました。

